

令和 3 年度（2021 年度）第 2 回熊本博物館協議会 議事録

令和 3 年（2021 年）11 月 17 日（木）10:00～11:30

於：熊本博物館講堂

出席者

【委員】

松下委員（会長）、鈴木委員（副会長）、鶴嶋委員、木川委員、田中委員、内村委員、宮本委員、水洗委員、河瀬委員、荒木委員

【市】

田端館長ほか博物館職員

〈次 第〉

1 開会

2 主催者挨拶

3 会長挨拶

4 議事

(1) 令和 2 年度運営分 熊本博物館運営点検評価報告について

5 その他

令和 4 年度の取組（案）について

6 閉会

< 議事 >

【令和 2 年度（2020 年度）熊本博物館運営点検評価報告】

会 長：それでは次第に従いまして、令和 2 年度熊本博物館運営点検評価報告について、事務局よりご説明をお願いします。

館 長：私の方からは、令和 2 年度運営分 熊本博物館運営点検評価報告について、総括的な説明をさせていただきます。私が総括的な説明をした後に、各取組について担当者から詳しく説明をいたします。まず、資料は点検評価報告の 1 ページをお願いいたします。この運営点検評価報告につきましては、平成 30 年 11 月に策定した「熊本博物館リニューアル後の運営方針」の中で、運営の検証と評価を行うことが示されています。このようなことから、今回、その結果を当協議会に報告し、今後の運営の改善・充実に資するため、意見を求めるものでございます。令和 2 年度の運営の点検と評価についてですが、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、年間計画に基づき各種の事業を実施してまいりました。しかしながら、当該年度も新型コロナウイルス感染症により、令和 2 年 2 月 29 日から 5 月 20 日まで臨時休館を余儀なくされ、計画をしていたイベントや講座・教室も軒並み中止または延期することとなり、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、様々な感染防止対策を講じながらの館運営となりました。つきましては、令和 2 年度

の実績を基に、今後どのように新型コロナウイルス感染症と共存していくかという視点を加えて点検と評価を行っております。それでは、主な学芸活動、施設の運営状況についてご報告いたします。資料は、2 ページをお願いいたします。まず、学芸活動についてですが、展示会では、特別展「KAGAYA 銀河鉄道の夜」及び波奈之丸再建 180 年記念特別展「細川家御座船 波奈之丸」が新型コロナウイルス感染症拡大のため、後年度へ延期されることとなりました。また、一方、企画展「ひとのすがた、いのりのかたち」、「博物館でひな祭り！！」、「震災をふりかえる」につきましては、感染症対策を講じながら開催し、熊本の歴史と文化や熊本地震の記憶を伝えることができました。教育・普及活動では、多岐にわたる「学校教育支援事業」の中から、主にゲストティーチャー派遣授業や館内学習プログラムについて、校長会や教職員向け研修講座で、内容の紹介を行い、一層の活用促進に努めました。子ども科学・ものづくり教室は、実験・工作室や講堂を主会場として、科学実験・科学工作を中心に、理工以外の関連分野の内容も取り入れて実施いたしました。情報発信については、収蔵品データベースの情報更新はもとより、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う博物館の休館や小・中学校の一斉休校といった状況を踏まえ、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットにて発信いたしました。また、展示会や講演会・催しなどについても、当館ホームページ、市ホームページ、ツイッター、市政だより等を活用し、積極的な情報発信に努めました。このほか、秋のお城まつり期間に合わせたサタデーナイトミュージアムの開催、各種展示会や常設展示物とも連動させた講座・ミュージアムトークなどを行い、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫を行いました。次に主な運営状況ですが、受付窓口では、新たにキャッシュレスでの入場料等の支払いを導入し、来館者へのサービスの向上に努めました。また、三の丸地区における中核施設として、「熊本城」「熊本城ミュージアムわくわく座」「博物館」の 3 館共通券の販売や施設紹介を行うなど、観光案内機能をさらに拡充しております。災害対策といたしましては、年度内に 2 回、計画的に消防訓練を実施いたしました。施設の安全管理につきましては、全庁的な施設の長寿命化計画に基づき、令和 2 年 8 月から令和 3 年 7 月までの工期で、屋根及び外壁改修を実施いたしました。私からの総括説明は以上でございます。引き続き、各担当主幹、主査から個別の報告をさせていただきます。

— 学芸班主幹及び総務企画班主査より熊本博物館運営点検評価報告について説明 —

会 長：ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

委 員：私どもも博物館に勤めるものとして、このコロナ禍の大変難しい状況の中、大変多くの事業を工夫されて展開されていると感じました。その上で一点お伺いしたいことと感想をお伝えしたいと思います。まず 21 ページの除湿機・加湿器、それから空気環境について様々な対策を取られており、今現在は良い状況にあるという話ですが、夏季には湿度が上がり、また冬になると湿度が下がるというのは、やはり外気の影響を大きく受けていると考えられます。コロナの対策として、新鮮な空気量の取り入れを大きくしているというこ

とですか。

事務局：特にそういう意図ではありませんが、当然、コロナ禍の中ですので換気は十分しております。以前から地下エリアは比較的湿度の変動は大きくありませんが、湿度・温度が管理されている特別収蔵庫以外は季節による変動があるため、それに関して適切に対応できたということです。

委員：わかりました。除湿について適切に対応されているとのことですが、加湿に関してはどこ現場でも大変難しい状況ですので、どのような加湿器を使用されているのか教えていただきたいと思います。スチームまたはミストだと思いますが、ミストですと、やはり水道水を使用すると、塩類等がミストとして飛散するため露出展示などには余りよろしくないという話もありますので、やはり加湿については結構慎重に考えなければならないと思います。しかし、そうするとコロナ対策もあり、新鮮な空気の取り入れ量との兼ね合いになってしまうのですが、その辺りは空調システムの扱い方でもかなり変わってくる場合があると思いますので一応コメントとして申し上げておきます。

事務局：使用している加湿器は塩類が飛散しないように、飛んではいけない成分を除去できる方式のものを使っております。詳細については、別の学芸員から後ほど個別に説明させていただきます。

委員：別の感想となりますが、当館でも現状では博物館に来館いただくことが難しい状況ですので、オンラインでのプログラムですとか、あるいは zoom を使用した遠隔プログラムを行っております。実施してみると、また新たに切り拓けるよい部分がある一方で、やはり現地で物を見ていただかないとなかなか伝わらない部分もあります。どちらにも長所短所があることが、わかってきているので、それぞれの媒体をうまく使い分けする形で、それぞれの方法を最大限生かし、今後の新たな展開が出てくるのではないかと考えております。また、今回いろいろな団体との交流事業として、聴覚に障がいをお持ちの方の団体と交流を行ったとのことですが、当館でも同様の方向性を持っており、同じような事業に力を入れ始めております。それで全体的に、先ほど委員がおっしゃったように、博物館が多くの方により広い目的の提供の場となるよう、まずは多言語化に代表されるユニバーサル化や、もう一つは聴覚障がいがある方とか視覚障がいがある方にも同様に楽しんでもいただけるというような方向性で、ぜひ今後も深めていただければと思いました。

事務局：確かに展示が完全にユニバーサル化に対応しているとは言えませんが、明日、視覚障がい者の方々が来館予定となっています。各分野から触れることができる資料を選び、実験工作室に並べて直接触れてもらい、それぞれの担当から説明を行う予定にしております。現在はこのように、個別に対応している状況です。

委員：20 ページの施策についての点検報告、収集保存活動の取組による成果と次年度に残った課題として、限られたスペースと予算の中で資料の収集・管理・修復等に取り組むことが出来たというような記載があります。前回の協議会でも申し上げましたが、やはり当博物館がどのような役割を果たす必要があるのかということを明確にした上で、あとどれだけのスペースと予算が必要だと、しっかりと予算要求をしていく必要があると思います。限られたスペースで博物館の目的が達成できないのであれば、よりスペースを求めていく必要があります、今の予算や人員で足りないのであれば、やはり堂々と予算と人員を要求していく必要があると思います。それで財政課や市長が認めてくれない場合はやむを得ませんが、どうせ認められないだろうといって求めないのではなく、自分たちはこの使命を達成する必要があるというような、しっかりとしたビジョンを持って堂々と要求をしていただければ、それは市民も、我々議会も、協議会の皆さんもそれを見るわけです。このような記載は、自分たちがまだ足りていないということの表れだと思いますので、今後も堂々とそういったことを、きっちりと要求をして欲しいと思います。

事務局：ありがとうございます。少々勇気が出ました。要求していきたいと思います。

館長：ありがとうございます。私も心強く思ったところです。ビジョンという言葉がありましたが、やはり短期的ではなく中・長期的で、しっかりとビジョンを持ちながら、計画を立てていくことが大事だと思います。もちろんスペースの確保となりますと、熊本城域の中で増築、改築となりますので、非常にハードルの高いところもありますが、どれぐらいスペースが必要なのか、そこにどのような機能を持たせるのかということを計画的にしっかり考えながら、臆せずに予算要求をやっていききたいと思います。もう一つは、財政課に対して財源を示すということですが、熊本市全体が非常に厳しい財政状況だというのは、これは間違いないところですが、財政課に歳出予算を要求すると同時に歳入として、財源確保でどのようなことが出来るのかということを、いろいろと我々も勉強しているところです。後ほど少し触れさせていただきますが、例えばクラウドファンディングでありますとか、そのようなところも含め財源確保を考えております。

委員：地域の総合博物館として、また、この規模や人的体制で幅広くやっておられるので、あまり指摘するような点は基本的には無いと思っております。素晴らしい活動を展開されており、この中で幾つかコメントとして述べたいのは、今後の利用者との連携ということです。市民活動をどうやって一緒にやっていくかというのがやはり大きなテーマになってきます。このコロナ禍の中で、なかなかリアルな対応が難しいので、ZOOM での対応やホームページでのコンテンツ作成など、一生懸命取り組まれていることは素晴らしいと思います。それで、予算の話が出てきましたが、どこも予算が足りないのは一緒の話で、ますます厳しくなっていくと思います。一方で博物館の社会に果たす役割をもう一度見直そうということですが、博物館があって日本が豊かになるのだというような博物館法の趣旨に則って文化庁は法制化、改正をしております。ご存じかと思いますが、それと関連した予算化を、

実は文化庁が先にやっています。補助事業として博物館機能強化推進事業ということで、来年度 9 億 6000 万円を要求するというので、既にそういうレールに乗って走っているということです。その中の、社会・地域的な課題への対応ということで、要するに一つの博物館、大きいもの小さいものがありますが、なかなか単独館では解決出来ないことを連携の中でやっていく、もちろん熊本県の中でもネットワークとかありますが、その中で中核的な博物館を支援する動きがあります。まさに熊博はそういう役目があるだろうと思いますので、これはぜひ調べていただくとエントリーができるのではないかと思います。また、ネットワーク連携事業そのものへの支援というのもあり、地域の中、あるいは地域を超えた広域的な連携についても支援があります。ここは総合博物館ですから少し異なりますが、例えば天文台だけのネットワークは、地域だけでは出来ないの全国的、あるいは日本をいくつかのブロックに分割したネットワークに対して何らかの支援をお願いしたいという話もあります。そのようなことについても調べていただければ来年度、多分、エントリーできるのではないかと思いますので、情報としてお伝えしておきます。以上です。

会 長：ありがとうございます。事務局はご存じですか。

館 長：文化庁のネットワーク構築や、機能評価というメニューがあるのは存じ上げております。私たちも現在、来年度の予算案を組立て、要求を出している段階であります。国庫補助メニューを利用するとなった場合には、その事業を回していくマンパワーというのが当然必要になります。しかしながら、そのマンパワー自体が不足しているという厳しい状況も正直あります。今後、仮にネットワーク構築事業に取り組むとなれば、既存事業のスクラップを行っていかないと中々難しいと思います。委員がおっしゃった意味はよくわかります。私たちが県内で唯一の総合博物館であり、県内の博物館の中核的な施設であり、やはりいろいろな意味で私たちが中心となって県内の博物館を引っ張っていくというような役割もあるのではないかと思います。もちろん県のネットワークセンター、それから県には博物館の連絡協議会というのがありますので、そのようなところとも今の補助メニューに関して情報共有を行いながら、今後、前向きに取組を検討していきたいと思います。

会 長：はい。ありがとうございました。予算の話が出て、その前はコロナ対策の話がありましたが、学芸的な部分あるいは市民への広報などについてご意見はありませんか。

委 員：広報の話ですと、私は例えば熊本地震があった後、熊本の地質はどうなっているのだろうとすぐ興味を抱きました。子供たちも同様に興味を持つもの、好きなものがあると思います。博物館に興味がある子、ない子がいるとは思いますが、興味がある子は歴史や地質が好きな子が多いのではないかと思います。歴史や地質に興味がある子供たちは休み時間に図書室に行って本を借りたりして自分で調べていますが、そのような子供たちに対して「博物館に行って勉強していいのだよ」というような印象を持ってもらう必要があると思います。博物館は子供たちから何か、ちょっと遠い存在みたいな感じがしま

す。保護者も子供たちも忙しいので市政だよりを見ても、博物館のホームページを見ても博物館に行きたいと思う方は少ないのではないかと思います。そのようなことから考えると、少し知名度を上げるためにも子供たちが興味を示すような、大きな見出しをつける等の工夫を行った広報ポスター、チラシの配布や、興味がある子には「そこに行けばいいのだよ」と思わせることが重要だと思います。一市民感覚ではありますが、そのように思います。

会 長：大事なことかなと思います。何かご意見はありませんか。

委 員：おっしゃったように、とてもすばらしい取組、仕掛けが充実していると思っています。私は博物館を教員の研修でしか使ったことがありませんでした。子供たちを連れて行く機会がなかったので、もっともっと来館したい、来館させたい、子供たちが来館しやすいためには、どんなことが必要なのかと考えながらこの資料を読ませてもらいました。先ほどホームページについても話がありましたが、熊本博物館のホームページはとても充実していると思います。ネットサーフィンをしていろいろな博物館を見てきましたが、インパクトがあるものが良いと思います。カエル博物館は、どんとカエルが出おり、何かそういうのがあればと思いました。熊本博物館のホームページも、現在三つの大きなスライダーが流れていて、伝えたいことがどんどん出てくる構成はとても良いと思いますが、もう少しインパクトがあればと思います。あと、子供たちが来館しやすいという観点では、スクールシャトルバス事業の拡充があれば良いと思います。遠い学校だと博物館に来るためにバスを借りる必要があり、それは保護者に負担をお願いすることになります。もう少し拡大していただければ、希望する学校は多いと思います。また連携についてですが、去年もいろいろ計画をされたとのことで、県内の連絡協議会の中で他の施設等とも話をされているようですので、近隣の県の施設である伝統工芸館、美術館との連携を強化できないかと思います。

会 長：館側からございますか。館長、お願いします。

館 長：はい。お二人の委員から大変貴重なご意見を頂戴いたしました。熊本博物館は平成 30 年 12 月 1 日にリニューアルオープンをしておりますが、リニューアル工事、地震の影響を受けて、5 年ほど臨時休館をしている期間がありました。その間に、市民と博物館が少し疎遠になったというのもあるかもしれません。熊本博物館がどこにあるのかわからない方がいらっしゃるのも事実です。今後も広報発信に努めてまいります。

まずは、学校行事以外でも、プライベートで博物館に行ってみたいと思わせるような仕掛けが重要だと思っています。この後で説明をしますが、来年度の目玉として、集客力が期待できるような展示会を計画しております。このような企画をきっかけにして、まずは博物館に足を運んでもらい、博物館は面白いなと感じていただけたらと思います。併せて常設展示を見ていただき、その中で一つでもいいので興味・関心のあるものを見つけて欲し

と思っています。それから今、委員からご指摘をいただきました伝統工芸館や美術館、また熊本城を含めた関連施設、熊本城周辺施設との連携はこれまでも定期的に連携会議を行っておりますが、残念ながらコロナの影響で、この2年間は少し開催頻度が少なくなっております。そのため、具体的な連携がイベントの自粛等によって出来にくくなっていると思います。今後、コロナが終息した折には、やはりお互いがウィン・ウィンの関係になりますので、そのような連携を進めていきたいと思っています。

委員：先ほどご意見のありました学校へのチラシ配布は、今でも行っていますか。当館も近隣の市区町村の小学校に教育普及のチームがチラシを配っていますが、イベント情報を見て多くの親子連れの方が来られていますので、とても効果が高い方法だと思います。

会長：チラシについては、子供たちへの配布や掲示板等に貼っていただかないと効果が低いと思いますが、学校側として、委員はご意見ありませんか。

委員：学校には、多くのプリント物が来ます。貼るスペースは無いというところが現状です。小さいものだと子供たちに配ることが出来ます。博物館からはいつもいただいておりますので、今後も啓発、周知活動を継続していただきたいと思います。令和4年度の取組案を見せていただくと、すごく来てみたいと思うものばかりです。こういうことを博物館はやっているということを初めて知りました。特に、子供たちはとても恐竜が大好きです。コマーシャルするときに、子供たちに来てほしいというときにはネーミングが重要かと思います。例えば、サタデーナイトミュージアム、熟睡プラネタリウムなどは、ネーミングがとっても面白く、「これは来てみたい」と思いました。子供たちにコマーシャルするときも、何か子供たちに対してインパクトのある画面、あるいは言葉をつけると行きたくなくなるのではないかと思います。まず教員である私たちの目にスルーされるものではなく、これ何かな、と思うようなネーミング等があれば、子供たちに投げかけられたり掲示出来たりするのではないかと思います。いろんな取組や新しいな、と思うことがたくさんあったので、頑張ってください。ご協力できるところはしたいと思います。

会長：ご意見はありませんか。

委員：若手の意見として、SNS でInstagramをフォローさせてもらっていますが、硬い、面白くないというか、もっとフォロワーが増えるやり方があると思います。まず、ハッシュタグも少なく、文字も出てこないの、その点を工夫されたらいいと思います。また、ティックトックでの発信を検討してはいかがでしょうか。今日、博物館に来る際に紅葉がとてもきれいと思いました。また、熊本城もありますし、そのような写真がアップされたらいいのではないのでしょうか。博物館がどんな建物なのかというのを知らない方も多いと思うので、告知だけではなく、建物や景色を載せたら、いいのではないかと思います。今、若い人はフェイスブックやツイッターをあまり利用せず、Instagramで調べることが

多いです。そのため、Instagramは重要な発信ツールだと思います。

会 長：ご意見はありませんか。

委 員：私は今年（令和３年）の２月か３月にボランティアでこの考古学専門講座のお手伝いをさせていただきました。これについて、もっと多くの方に博物館を応援していただく取組が必要だと思います。いろいろな分野の有識者が博物館活動と関わりの深い研究、調査をされておられますので、学芸員が最前線で頑張ることも必要だと思いますが、地域にいる人材をコーディネートし、一つの体系的な講座に仕上げていくことを考えてはいかがでしょうか。10 の分野があるので、それぞれボランティアを募り人材バンクのようものを構築することにより、少し職員の負担を軽減出来るのではないのでしょうか。また、このような活動は大きな可能性を秘めているのではないかと思います。それと 15 ページですが、熊本県地名研究会の講座があり、参加者数が 190 人となっています。講演や共催という形で実施されたと思いますが、このような場の提供をすることで来館者を増やしていくといいのではないかと思います。やはり博物館に来てもらわないと良さがわからないと思います。子供さんに来館してもらうことは、もちろん大事ですが、高齢者も何か博物館に関わる活動を行いたいと思っている人も多くいらっしゃると思います。そのために足を運んでいただくきっかけ作りを、いろいろ制約があると思いますが、可能なものについては会場に使っていただく等、考えて良いと思います。以前は友の会活動がありました。29 ページにある各講座の受講生の中から同好会に発展していき、自立して研究活動を行うことになれば、博物館との相乗的な知識の集積に繋がっていくと思いますので、外部とのコンタクトをたくさん持って積極的に進めていただければ良いと思います。「叩けよ、さらば開かれん」ではないですが、遠慮せずに取り組んでいただければと思います。

会 長：現在、友の会活動というのは行っているのですか。

館 長：現在、友の会活動は行っておりません。委員からお話がありましたように、リニューアル後において、取組が遅れているのが市民の参画・協働という部分です。そこは、私も一つの大きな課題だという認識を持っております。今後、ボランティアの活用や、今おっしゃった友の会活動でありますとか、外部講師の招聘でありますとか、そのような市民の参画・協働については、しっかりと進めていけるように努めてまいりたいと思います。

委 員：今、すでに各委員から言われていることなのですが、私も熊本博物館はこれだけの取組をされており、情報発信にも日頃からいろいろ努めておられていますが、まだ届かないところがたくさんあり、どのようにして情報を届けたらいいのかと本当に日頃から苦心されていると思います。しかし、最後の 29 ページで、今ご指摘がありましたような市民参画というところで、具体的なことではないのですが、SNS の広報展開をコラボさせるような形で、来年度、小中学生にアピールできるような企画もありますので、今までと違う形で、

子供たちの生の声を何か届けられる仕組み作り、博物館のイメージを刷新するような、「博物館はこんなに面白い」というところを発信するような仕組みが市民参画で出来たら良いと思います。今までの博物館の取組に関しては、本当に素晴らしいものがあると思います。

会 長：私から2点よろしいでしょうか。この協議会で出た意見、質問は文字化され、実際の運営に反映されるのでしょうか。また、このような協議会等の意見を吸い上げる機関があるのでしょうか。

館 長：まず1点目のこの協議会の意見がどのように反映されるのかということですが、議事録を作成し、市のホームページにて公開いたします。また、いただいたご意見に対する運営への反映につきましては、あらためて館内で協議・検討を行い、この協議会の中で適宜、報告をさせていただくこととしております。2点目の博物館の運営に関する意見を吸い上げる機関が他にあるのかということですが、本市には社会教育委員会議というものがあり、その中では私たち博物館だけではなく公立公民館や図書館など、幅広い社会教育機関に対して、委員から意見をいただく場がございます。

会 長：よろしいでしょうか。ほかにご質問、ご意見はございませんでしょうか。それでは、その他の令和4年度事業計画（案）についてお願いします。

— 事務局より令和4年度事業計画（案）について説明 —

会 長：ありがとうございました。その他、聞いておきたいことはございませんか。これで全ての議事は終了しました。ご協力ありがとうございました。多くの質疑も出ましたので、館の運営に生かしていければと思います。

事務局：会長、議事の進行ありがとうございました。これをもちまして、令和3年度第2回熊本博物館協議会を閉会させていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。なお、現在2階の特別展示室におきまして、企画展「未来へつなぐ植物の記録、令和2年7月豪雨災害で被災した前原勘次郎の植物標本」を開催しております。お時間のある方は、ぜひご覧ください。また、先ほど追加でチラシを配らせていただきました。これは、熊本城の夜間開園に合わせて当館も週末の土曜日の3日間（11/20、11/27、12/4）について、サタデーナイトミュージアムと題しまして夜間の開館延長をするイベント紹介用のチラシです。プラネタリウムの放映回数を増やしたり、その他、様々なイベントを行いますので、こちらも併せてご案内させていただきます。以上でございます。

会 長：ほかにご質問、ご意見はございませんでしょうか。令和2年度 熊本博物館運営点検評

報告については、これでよろしいでしょうか。

会 長：委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

— 閉 会 —